

事業完了報告書（大阪府教育委員会）

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和7年3月7日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 Ⅲ. 都道府県・市町村間の連携に関すること
調査研究のねらい	○ 義務教育の学びを必要とする大阪府民が、府内のどこに居住していても、よりスムーズに府内の夜間中学に就学できるようにするための府と各市町村の連携について、より効果的な手法について研究を進める。特に令和6年度は、泉佐野市において夜間中学が新設された。このことを機会に、泉佐野市近隣の泉南地区の市町村の夜間中学への意識を高めるとともに、府内すべての市町村の夜間中学への意識を一層高めたい。 そのことが、府と府内全市町村間の連携をより強固なものとするにつながり、結果として、府内入学希望者の需要の更なる掘り起こしにつながるということを明らかにしたい。
調査研究の成果	1. 全市町村の夜間中学への就学体制の構築について <u>（1）実態調査（令和6年5月）</u> ①目的 ・ 府内夜間中学の実態を把握し、以後の施策立案における基礎資料とする。 ②実施内容 ・ 府内夜間中学11校に対し府独自の実態調査を実施し、学級数、学年別人数、年齢層、居住市町村、国籍、入学者数、入学生が夜間中学を知ったきっかけ、前年度卒業者数、進学状況等について把握した。 <u>（2）大阪府夜間中学連絡協議会（令和6年11月）</u> ①目的 ・ 各市町村教育委員会担当者の夜間中学への見識を深め、学びを必要とする方に、適切な情報がより一層届く取組みの充実をめざす。 ②実施内容（府内全市町村教育委員より担当者が参加） ・ 府からの説明 - 府内夜間中学の状況（実態調査結果等）について - 令和2年国勢調査の結果について

広報の充実について

・ 報告

「設置市教育委員会の夜間中学の取組みについて」

泉佐野市教育委員会教育総務課参事

今年度までの夜間中学開設に向けた取組みと、新設学級に通う生徒の状況や背景、それらをふまえている夜間中学の取組みや生徒への支援等について、設置市の視点で全市町村に対して報告をしてもらった。

泉佐野市に新たに夜間中学が加わったことで、すべての市町村の担当者にとって、夜間中学が既存の市だけに限定されるものでなく、自身の自治体に設置することも含めて検討できる可能性があることを伝えることができた。また、学びを必要とする方へ義務教育の機会を提供するため、各市町村の担当者が夜間中学への見識を深めることができた。

・ 情報交流

令和2年の国勢調査結果より、府内全市町村に義務教育未修了者がいる可能性があることをふまえて、各市町村における効果的な広報の仕方についてグループ協議を行ったことで、広報の充実に向けて取り組むことの重要性について全市町村と共有することができた。

全グループに夜間中学設置市の担当者を配置して意見交換を行うことで、全ての担当者が夜間中学のことを自分事として捉えることができていたように感じる。

2. 設置市の教育委員会との連携について

（1）夜間中学設置市主管課長会議（令和6年8月、11月、令和7年3月）

①目的

- ・ 府教育庁と夜間中学設置市教育委員会が、学校の現状や課題等について情報交換し、共通理解を図ることにより、夜間中学における教育の充実をめざし、すべての府民の義務教育機会の確保に資する。

②実施内容（府内夜間中学設置市の主管課長等が参加）

- ・ 府実態調査の共有
- ・ 情報交換・意見交流

	卒業後の進路 市の夜間中学への支援（通訳、SC、SSW、非常勤、施設等） 広報の取組み・計画 府外在住者の受入れ状況 不登校学齢生徒の受入れ 夜間中学連絡協議会での協議の流れの共有 1年間の広報の成果 R7年度入学希望者の状況等 3. 広報活動を通じた市町村との連携 （1）広報の充実 ①目的 ・府内8市に11校の夜間中学を有することになる大阪府において府内すべての市町村に在住されている夜間中学での学びを必要とする人に対して、より効果的に情報を届けるための検討を行う。 ②実施内容 ・夜間中学チラシ、入学案内の更なる多言語化を図った。フランス語、ウルドゥー語、タミル語、クメール語を追加し20言語に対応できるようになった。 ・夜間中学設置市主管課長会議にて府や各設置市の広報の取組み（市の広報紙、市のケーブルテレビ、市のウェブサイト、SNSへの掲載など）を共有し、各市での広報の充実に生かした。 ・大阪府夜間中学連絡協議会で、今回作成したポスター・チラシを配付した。 令和2年の国勢調査結果より、府内全市町村に義務教育未修了者がいる可能性があることをふまえて、効果的な広報の仕方について、ポスター・チラシを提示したうえでグループ協議を行ったことで、更なる広報の充実に向けて取り組むことの重要性について、全市町村と共有できた。 4. 調査研究の総括 都道府県・市町村間の連携については、夜間中学連絡協議会、夜間中学設置市主管課長会議をはじめ、学校訪問の実施
--	---

や連絡会等を年間通じて様々な形で行うことができた。

すでに域内に複数の夜間中学を有しており、府内在住であれば、どの夜間中学に通学することも可能である大阪府においては、夜間中学の広報として、近くの夜間中学をスムーズに案内できるかどうか非常に重要となる。

夜間中学連絡協議会において、夜間中学の設置のない自治体担当者に対しても、改めて広報の必要性を共有するとともに、各市町村の施策について情報共有等を行うことができたことは府と市町村の連携において大きな意義があったと考える。

なお、広報媒体については、広報ポスター・チラシの多言語化をさらに進め、府内在住外国人の約98.7%の母語をカバーすることができた。また、配架スペースと多言語化を両立するために二次元コードを活用する工夫は本年度も継続し、言語数の拡充にも効果的に対応できた。今回の工夫がどれだけ効果的な広報であり、夜間中学への入学につながったかの検証も今後行っていきたい。

府内在住であれば、府内夜間中学への入学要件を満たす大阪府においては、泉佐野市の新設が単に泉佐野市のことだけでなく、全市町村との連携を進めていくうえで、大きな起爆剤となったと感じている。引き続き全市町村との連携を深めていきたい。